

令和 2 年 6 月 15 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12236

研究課題名（和文）訪問看護師による一人暮らし高齢者の家族支援指針の開発

研究課題名（英文）Developing guidelines for home visiting nursing to support families of older people living alone

研究代表者

辻村 真由子 (TSUJIMURA, Mayuko)

千葉大学・大学院看護学研究科・准教授

研究者番号：30514252

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,700,000円

研究成果の概要（和文）：日本の高齢化率は世界第1位であり、近年、高齢者単独世帯の割合は一貫して上昇し続けている。本研究の目的は、日本の在宅ケア体制および社会文化的背景を踏まえた訪問看護師による一人暮らし高齢者の家族支援指針を開発することであった。文献レビュー、海外（フィンランド、アイルランド）の先駆的事例の視察、日本の訪問看護・老年看護・家族看護の熟練者を対象とした意見聴取と質問紙調査から、一人暮らし高齢者の意向の尊重と高齢者・家族員のセルフケア能力の維持・向上を実現する訪問看護師による支援指針を開発した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

フィンランド等の国々では、以前から高齢者の一人暮らしは孤独なものではなく、自立していることであると捉えられている。しかし、日本では一人暮らし高齢者の在宅死は孤独死と表現され、高齢者本人が最期まで一人暮らしを続けることを望んでいても家族の意向により病院への入院、入所が検討されることがある。本研究は、そのような現状の中、高齢者自身と別居の家族が納得して自宅での生活を継続することを支援するための訪問看護師による支援指針を開発した。支援指針の活用により、一人暮らし高齢者の家族支援の質向上、一人暮らし高齢者の在宅死に関する新たな価値創造に貢献することができる。

研究成果の概要（英文）：Japan has the highest rate of aging in the world, and in recent years the percentage of older one-person households has consistently been on the rise. This study aimed to develop guidelines to support families of older people living alone through Japan's home care system and home visiting nursing founded on sociocultural backgrounds. Based on literature review, observations of pioneering cases overseas (Finland, Ireland), and interviews and questionnaires given to experts in home visiting nursing/gerontological nursing/family nursing in Japan, support guidelines were developed for home visiting nursing that respects the wishes of older people living alone, and maintains and improves the self-care agency of older persons and their family members.

研究分野：訪問看護学

キーワード：訪問看護 家族支援 一人暮らし 高齢者

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

2014年の日本の高齢化率は26.0%と過去最高となった。今後半世紀で世界の高齢化は急速に進展することが見込まれているが、2010年の国際比較において、日本の高齢化率は23.0%であり、世界で最も高い高齢化率となっている(高齢社会白書, 2015)。2013年において、日本では65歳以上の高齢者のいる世帯は全世帯の44.5%で、そのうち高齢者単独世帯と高齢者夫婦のみ世帯を合わせると56.7%を占めていた(高齢社会白書, 2015)。特に、高齢者単独世帯の割合は一貫して上昇し続け、2030(平成42)年には37.7%に達することが見込まれている(高齢社会白書, 2012)。

日本のさらなる高齢化を見据え、厚生労働省は2025(平成37)年を目途に地域包括ケアシステムを構築することを目標に掲げている。地域包括ケアシステムでは、高齢者が重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができることを目指している。家族との同居・別居を問わず、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる在宅ケア体制の構築が求められている。

訪問看護師による一人暮らし高齢者の支援においては、フォーマルな支援者だけでなく、別居の家族、ボランティア、友人、隣人などのインフォーマルな支援者を含む支援体制を構築することが必要とされる(伊藤ら, 2007; 宮田, 2014)。しかし、別居の家族は一人暮らし高齢者の支援者であると同時に、訪問看護師による支援の対象者でもある。訪問看護ステーションにおける独居者の看取りについての実態調査(神奈川県, 2014)によると、ターミナルケア・看取り対応で苦慮した点として、「本人はもちろん、家族も看取りに対して不安があり、いかに安定を保って療養生活を送ることができるよう支えるか悩んだ」「家族が介護に疲れ、本人に暴言を吐くようになったため、家族をいかに支えるか悩んだ」「家族間の看取りに向けた意見のすり合わせに苦慮した」などが挙げられている。日本では患者の治療の意思決定において、患者本人のみよりも患者が家族と話し合って最終決定をする人が多いことが明らかにされており(Ito et al. 2010)。家族の思いが患者の意思決定に与える影響は大きいことが推察される。それゆえ、一人暮らし高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることを訪問看護師が支援するうえで、別居の家族を含めた支援を行うことは重要である。

しかし、わが国における一人暮らし高齢者の別居の家族に対する訪問看護師による支援に関する先行研究・報告は、自宅への退院において家族の安心が高齢者の安心につながること(岩崎ら, 2012)、一人暮らし高齢者の看取りを通じて家族の関係性が修復できたこと(青木, 2005)などが報告されているが、事例研究や実践者による意見に留まっていた。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、わが国の在宅ケア体制および社会文化的背景を踏まえた訪問看護師による一人暮らし高齢者の家族支援指針を開発することである。

そのために、ソーシャルクオリティの視点を踏まえて一人暮らし高齢者の特性と多職種による家族支援の実態、訪問看護師による一人暮らし高齢者の家族支援の具体的内容と方法を明らかにする。それを基に、訪問看護師による一人暮らし高齢者の家族支援指針案を作成し、エキスパートへの意見聴取、質問紙調査を経て、指針を完成させる。

### 3. 研究の方法

#### (1) 一人暮らし高齢者の家族支援に関する国内外の文献レビューと情報収集

一人暮らし高齢者の家族支援に関する国内外の文献レビュー

医学中央雑誌 Web 版を用いて、「一人暮らし」AND「高齢者」AND「訪問看護」、「一人暮らし」AND「家族看護」等の掛け合わせ検索、PubMed を用いて、(older people) AND (living alone) の掛け合わせ検索を行った。検索された文献のうち、研究目的に沿った文献を選定し、訪問看護師による一人暮らし高齢者の家族支援の具体的内容と方法について整理した。

在宅高齢者の安全・安心な生活に関する質問紙調査

在宅高齢者の安全・安心な生活の支援の一手法としての在宅ケアロボットの活用に焦点を当て、ロボットに関する認識を把握するための質問紙調査を実施した。対象者は、65歳以上の高齢者、家族介護者、高齢者を支援する事業所に所属する在宅ケア専門職、合計4,445人とした。なお、介護サービス情報公表システムにおいて機関名を公表しているA県内の事業所を対象とした。分析は、STATA 14.0 (StataCorp LLC, TX, USA)を用いて、記述統計、Kruskal-Wallis 検定、因子分析等を実施した。

#### (2) フィンランドおよびアイルランドにおける一人暮らし高齢者の家族支援に関する現地調査

フィンランドおよびアイルランドにおいて、一人暮らし高齢者の家族支援、ケアサービスに関するインタビュー調査を実施した。対象者は、看護職、介護職、医師、理学療法士、ソーシャルワーカー、メモリーナース(フィンランド)等合計25人(フィンランド12人、アイルランド13人)であった。インタビュー内容は、一人暮らし高齢者に対する支援内容、一人暮らし高齢者の家族に対する支援内容などであった。逐語録をデータとし、質的内容分析を実施した。

#### (3) 訪問看護師による一人暮らし高齢者の家族支援の具体的内容と方法を明らかにするためのインタビュー調査

千葉県および東京都において訪問看護サービスに従事している訪問看護認定看護師、在宅看護専門看護師、地域看護専門看護師のいずれかの資格保有者14人に対し、半構造化インタビュー

一調査を実施した。インタビューでは、療養期別（在宅移行期、安定期、病状悪化期、終末期、臨死期、死別期）の支援方法について、「家族に関する情報収集、アセスメント」「家族との関係構築」などについての工夫と課題を聞き取った。逐語録をデータとし、質的内容分析を実施した。

(4) 訪問看護師による一人暮らし高齢者の家族支援指針の作成

(1) (2)、(3)の結果を基に、訪問看護師による一人暮らし高齢者の家族支援指針案を作成した。この指針案について、関東地方、中部地方、近畿地方で活動するエキスパート（在宅看護専門看護師、訪問看護認定看護師、家族看護専門看護師、老人看護専門看護師、家族支援に関する教育研究者）合計 24 人を対象とした専門家による検討会議および質問紙調査を実施した。

研究班が作成した指針案の各項目（家族支援の内容について一文で示されたもの）について、重要性、実施可能性、表現の明瞭さの観点からの評価を得た。また、対象者の基本属性（性別、年代、保有資格、学歴、職場での立場、経験年数等）について情報を得た。検討会議および質問紙調査の結果を基に、指針案を修正した。

#### 4. 研究成果

(1) 一人暮らし高齢者の家族支援に関する国内外の文献レビューと情報収集

一人暮らし高齢者の家族支援に関する国内外の文献レビュー

文献レビューの結果に基づき、一人暮らし高齢者の家族支援内容について、療養期別（在宅移行期、安定期、病状悪化期、終末期、臨死期、死別期）に整理した。

在宅高齢者の安全・安心な生活に関する質問紙調査

580 人（高齢者 79 人、家族介護者 54 人、在宅ケア専門職 444 人）から回答が得られ、有効回答率は 13.0%であった。

在宅ケアロボットへのニーズについては、「高齢者が転倒したときに、家族や支援者に早急に知らせる」「自然災害発生時、高齢者の所在を家族や支援者に伝える」「認知症の高齢者では、火の不始末を家族や支援者に知らせる」などのニーズが高かった。

(2) フィンランドおよびアイルランドにおける一人暮らし高齢者の家族支援に関する現地調査

質的内容分析により、高齢者の自宅での生活を支える医療・福祉専門職の活動として、【パブリックヘルスナースと GP(General Practitioners)を中心とした包括的支援】【専門介護人の訪問による食事・清潔・排泄の支援リエゾンナースによる相談】【研修を受けた看護師による薬物の処方・調整】【デイホスピタルでの継続的身体評価と自立支援】【デイホスピタルや急性期病院における家族介護教育】等が明らかとなった。

(3) 訪問看護師による一人暮らし高齢者の家族支援の具体的内容と方法を明らかにするためのインタビュー調査

訪問看護師 14 人に対してインタビューを行い、20 事例の一人暮らし高齢者の家族支援について聞き取った。事例には、認知症を有する事例が半数程度含まれていた。血縁のない家族、海外に暮らす家族、在日外国人の家族などを含む一人暮らし高齢者の家族への支援について明らかにした。

支援には、家族が高齢者の現状を認識するための支援、家族が時機を逃さず高齢者の看取りを行うための支援等が含まれた。

(4) 訪問看護師による一人暮らし高齢者の家族支援指針の作成

指針案は、【1. 基本姿勢】【2. 家族員の置かれている状況の理解】【3. 家族員の価値観・都合の尊重】【4. 家族員との連絡方法の確立】【5. 家族の不安・苦悩への対応】【6. 家族との信頼関係の構築】【7. 家族関係のアセスメントと調整】【8. 家族員の介護する力の把握】【9. 家族員の介護力の維持・向上の支援】【10. 家族員の病状理解の促進】【11. 家族員でなければできない役割の提示】【12. 家族の意思決定支援】【13. 異常時の対応】【14. 看取りに備えた調整】【15. 家族員との連携による支援体制の構築】【16. フォーマル・サービス、インフォーマル・サポートとの連携による支援体制の構築】【17. 家族員による評価の確認】の 17 カテゴリーからなる 82 項目に整理された。

専門家による検討会議は 3 グループ 15 人のエキスパートに対して行い、質問紙調査には 23 人のエキスパートが参加した。検討会議および質問紙調査の結果を基に指針案を修正し、以下の構成からなる 12 カテゴリー・57 項目の指針を作成した。

##### < 指針の説明 >

訪問看護師による一人暮らし高齢者の家族支援の目標を、「一人暮らし高齢者が高齢者と家族員ができる限り健康を維持しながら、高齢者が望む限り在宅療養を継続できる」とします。なお、指針において、「利用者」は一人暮らし高齢者、「家族員」は一人暮らし高齢者以外の家族構成メンバーとします。また、「家族」は一人暮らし高齢者を含む家族全体を指し、「家族」と「家族員」という言葉を区別して用います。

##### < 指針の構成 >

【1. 基本姿勢：6 項目】

【2. 家族のアセスメント：7 項目】

【3. 家族員の負担に配慮したかわり方法：3 項目】

【4. 家族とのパートナーシップの形成：5 項目】

- 【5．家族関係の調整：7項目】
- 【6．家族員の病状理解の促進：3項目】
- 【7．家族の意思決定支援：4項目】
- 【8．家族員の介護力の維持・向上の支援：5項目】
- 【9．急変時の対応体制の整備：1項目】
- 【10．看取りに備えた調整：8項目】
- 【11．フォーマル・サービス、インフォーマル・サポートとの連携による支援体制の構築：7項目】
- 【12．家族による評価の確認：1項目】

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 辻村真由子, 諏訪さゆり, 石丸美奈, 俞文偉	4. 巻 18(10)
2. 論文標題 一人暮らし高齢者の在宅療養生活を支える訪問看護実践と家族支援方法の探究 - 学際研究への発展 -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 67-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Suwa S, Tsujimura M, Ide H, Kodate N, Ishimaru M, Shimamura A, Wenwei Yu	4. 巻 -
2. 論文標題 Home care professionals' ethical perceptions of the development and use of home-care robots for older adults in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Human-Computer Interaction	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 0.1080/ 10447318. 2020. 1736809	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件/うち国際学会 5件）

1. 発表者名 辻村真由子, 諏訪さゆり, 小館尚文
2. 発表標題 認知症者の生活障害へのケア - アイルランドにおけるヒヤリング調査 -
3. 学会等名 第19回日本認知症ケア学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 辻村真由子, 諏訪さゆり
2. 発表標題 訪問看護を利用する一人暮らし高齢者の実態に関するアンケート調査
3. 学会等名 第23回日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kodate N, Suwa S, Tsujimura M, Shimamura A, Ishimaru M, Ide H, Yu W
2. 発表標題 Policy-driven innovation or technology-driven policy? What a questionnaire tells us about robotics-aided care in Japan
3. 学会等名 ESPANet (European Network for Social Policy Analysis) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kodate N, Suwa S, Tsujimura M, Ishimaru M, Shimamura A, Ide H, Yu W
2. 発表標題 What are the key criteria for decision-making concerning the use of home-care robots? Findings from a questionnaire study in Japan
3. 学会等名 66th Annual and Scientific Meeting of the Irish Gerontological Society (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 辻村真由子, 諏訪さゆり, 小館尚文
2. 発表標題 アイルランドにおける高齢者の自宅での生活を支える医療・福祉専門職の活動とケアサービス
3. 学会等名 第22回日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tsujimura M, Suwa S, Ishimaru M, Shimamura A, Ide H, Yu W, Kodate N
2. 発表標題 Developing a questionnaire to understand perceptions towards home-care robots among the elderly who receive home-care, family caregivers, and home-care professionals.
3. 学会等名 65th Annual and Scientific Meeting of the Irish Gerontological Society (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Suwa S, Tsujimura M, Ishimaru M, Shimamura A, Ide H, Yu W, Kodate N
2. 発表標題 How do people perceive home-care robots? A questionnaire study with the elderly, family caregivers, and care professionals in Japan.
3. 学会等名 65th Annual and Scientific Meeting of the Irish Gerontological Society (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tsujimura M, Suwa S, Shimamura A, Ishimaru M, Ide H, Yu W, Kodate N
2. 発表標題 What are the desired functionalities of home-care robots? A cross-sectional survey among older people, family caregivers, and home-care professionals in Japan.
3. 学会等名 The 7th Hong Kong International Nursing Forum (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 辻村真由子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 4
3. 書名 第 章 諸外国の在宅看護 4. フィンランドの在宅看護・看護学テキストNICE 在宅看護論(改訂第2版) 自分らしい生活の継続をめざして	

〔産業財産権〕

〔その他〕

千葉大学大学院看護学研究科生活創成看護学講座地域創成看護学教育研究分野訪問看護学専門領域ホームページ <a href="https://www.n.chiba-u.jp/visiting-nursing/result/index.html">https://www.n.chiba-u.jp/visiting-nursing/result/index.html</a>
---

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	石垣 和子  (ISHIGAKI Kazuko)  (80073089)	石川県立看護大学・看護学部・教授    (23302)	
連携 研究者	諏訪 さゆり  (SUWA Sayuri)  (30262182)	千葉大学・大学院看護学研究科・教授    (12501)	
連携 研究者	能川 琴子  (NOGAWA Kotoko)  (50756715)	千葉大学・大学院看護学研究科・助教    (12501)	